

## 現地の風にふかれて学んだこと

-修学旅行から考える-

校長 土屋 美之

「でかい!」「すごい!金ぴかだ!」

東大寺や金閣寺等を見学する中での多くのつぶやき。6年生は5月24日(水)25日(木)の2日間、修学旅行(京都奈良)に行ってきました。コロナ感染症が5類になったこともあり、京都や奈良は人、人、人。多くの修学旅行生、外国人でいっぱいでした。

『きざめ!歴史を、思い出を、目と心に!!』をスローガンに掲げ、修学旅行を成功させようと、事前の取組を行いました。修学旅行への道と題し、①時間厳守、②トイレスリッパ揃え、③けじめ、④大きな声で自分から挨拶の4項目にこだわってきました。当日、子どもたちは事前に取り組んだ活動を生かして、けじめをつけ、時間厳守がばっちりできました。外国人の方にも積極的に「Hello!」等と挨拶を交わす子どもが多かったです。



また、事前に見学場所を決め、たくさんの勉強をしてきました。ある程度の知識はあるものの、目の前にどーんと出てくる建物の大きさなどに圧倒されるばかり。しかも、それが昔の工法で作られているのですから。タクシー研修では運転手さんから、それ以外はガイドさんからたくさんのお話をいただきました。現地で見るとこそ、わかることもあります。自分の目、耳、鼻などの五感で感じることはとても大切です。子どもたちは現地の風にあふれて、たくさんのお話を学びました。感じ方は人それぞれですが、どの子どもにとっても、一生忘れることができない修学旅行になりました。

ちなみに、私の場合(遠い昔のことですが)、二条城のうぐいす張りは今でも覚えています。当時タクシー研修がなかったので、ガイドさんの説明を聞いて各建物等を見学。多くは忘れていますが、二条城の「キュッキュツ」という音は記憶の片隅にあります。今年の6年生はどんなことを生涯覚えているのか楽しみです。さらに、こんなこともありました。二日目の朝、希望者による早朝散歩。そこで、朝のランニングをしている女性の方から声をかけられました。「実は生まれたばかりの子鹿がいますよ。私も毎日ランニングをしているけれど、私たちですらめったに見ることができません。もし、よかったら見に行きませんか?」と。興味津々の子どもたち。女性の方の案内で見に行きましたが、残念ながら赤ちゃん子鹿に遭遇することはできませんでした。ただ、修学旅行生のために、わざわざ声をかけてくださる気持ちに感謝、感謝です。現地に行かなければ、そのような声かけもないので、やはり現場は大事ですね。



学校では、5年生はJAの方から「田植え」、4・5年生はゴルフの町みずなみ実行委員会の方から「スナッグゴルフ」を教えてもらいました。特に田植えは実際にやってみないと、苦勞はわかりません。改めて、体験することの重要性を感じました。子どもたちのために、教えてくださった方々。本当にありがとうございました。